

モンカダ兵営襲撃 60 周年の前年に実施された「16 回目の友好訪問団」

第16回平和友好訪問団（団長：君島一字代表委員 一行9名）が、昨年の11月18日～25日までキューバを訪問してきました。今回は、青年の島における年2回の稲作技術指導支援と状況視察のコース（3名参加）と、キューバ革命の発端となった“モンカダ兵営襲撃”から今年60年になるのを記念して、革命の故郷サンティアゴ・デ・クーバから革命の歴史を辿る基本コース（6名参加）の2グループに分かれて実施しました。（詳細は報告集『カリブの社会主義XV』 参照 3月31日発行予定）

18日午後成田空港に集合し、午後5時発のトロント乗り継ぎ便にて、ハバナに向かいました。同日午後7時半（現地時間）ホセ・マルティ国際空港に到着し、通訳ガイドのオスワルドさんの出迎えを受け、常宿ホテルの「オキシデンタル・ミラマル」へ。是永礼子さんと日程等の打ち合わせをしてから、ホテル内で短時間でしたが懇親会を持ちました。

翌19日、青年の島グループは早朝4時過ぎに国内線空港へ行き、7時半の便で青年の島へ向かいました。

※報告は、別稿。

基本グループは、昼の便でサンティアゴ・デ・クーバへ。

訪問直前の10月25日未明、強力なハリケーン「サンディ」がキューバ東部オリエンテ地区を襲い、死者11人に加え、甚大な物理的被害をもたらしたというニュースに接していたので、心配をしていました。アントニオ・マセオ空港のビルには破壊されたままのところもありました。市内に向かうバスから見た光景でも木々はなぎ倒され、民家の屋根はむき出しになっているなどその被害の大きさを目の当たりにしました。

最初の訪問地は、ホセ・マルティの眠るサンタ・イフィヘニア墓地でした。その日最後の衛兵交代の儀式を見ることができました。ホテルに戻る途中に市の中心にあるセスペデス公園に立ち寄り、フィデル・カストロが1959年1月1日に革命勝利解放演説をした市役所バルコニーや対面にあるアスンシオン聖堂、左右にあるキューバ歴史博物館（ベラスケスの家、カサ・グランダ・ホテルなどを見学しました。しかし、木陰を作っていた大きな樹木はすべてなく、そこには新しく小さな木が植え付けられていました。

20日、世界遺産のモロ要塞を見学、ここでも半数以上の売店が全壊し、2軒が修理しながら営業していました。その後、モンカダ兵営博物館を見学しました。カストロは革命戦争中に軍事施設を学校にすると約束していましたが、革命勝利後ここはすぐに学校になり、現在も博物館の受付の隣が教室でした。昼食後、ホテルに戻りました。

日系三世のリディアさん親子にホテルまで来ていただいて懇談をしました。以前個人的にお世話になったこともあり、今回のハリケーンの被害に対する支援物資を届けることも目的でした。リディアさんの家族の家々も屋根が吹き飛ばされ、今もって修理できていないとのことでした。話によると、サンティアゴ・デ・クーバには今まで大きなハリケーンの被害がなく、住民たちは安心して避難が遅れたとのこととても悲しんでいました。また、リディアさんの祖父は1920年代に一人でサンティアゴ・デ・クーバへ来て、移住したそうで、自伝を書き上げていました。近々出版することなので期待したいと思います。その日の夜便でハバナに戻り、ホテル到着は夜中。

翌21日、午前中にハバナ市郊外にある共同農業生産組合の農場を訪問。組合長のミゲルさんの出迎えを受け、娘さんが農場の説明と案内をしてくれました。この農場はミゲルさんたち5名で15年前に始めたとのことでした。有機農業の取り組みは、その時にやらなければならなかったのですが、今、やって良かったと思っていますと話されました。農場見学をしているときに、ラモン・パルド・ゲーラ将軍（サンタクララ列車転覆時の隊長）の視察と遭遇しました。



銃弾跡の残るモンカダ兵営跡で



ハリケーンの爪痕残るモロ要塞の売店



だるまをお土産で持参。農場で。

その後、専用車でシエンフエゴスに向かいました。昼食を取ってから、世界遺産の市街地ホセ・マルチ公園を見学し、サンタクララへ移動しました。

22日、サンタクララ市内のポリクリニコ「チキ・ゴメス・レビアン病院」を訪問し、診療所の説明を受け、近くのファミリードクターを視察しました。そして、支援物資の贈呈を行いました。

その後、郊外にあるカピー口の丘から市を一望しました。1959年1月1日未明にバティスタが国外逃亡を図り、革命勝利を決定づけたサンタクララの列車襲撃（1958年12月29日の戦闘）跡を見学し、市街地にある市共産党本部前のゲバラ像を見ました。昼食の跡、チェ・ゲバラが同志ととも



CTC, ICAPの仲間と是永宅で

にも眠るゲバラ廟とゲバラ博物館を見学し、ハバナへ移動。ホテルにて青年の島稲作視察グループと合流し、夕食。



診療所視察を終え

12月23日キューバ最終日、訪問団全員で革命博物館、モロ要塞を見学しました。世界遺産の旧市街に出て、「ボデギータ」にて昼食。ハバナ大聖堂からオビスポ通りを散策し、キャピトリオ、革命広場等を見学して、一度ホテルに戻りました。

毎回恒例となっている是永邸でのカレー夕食会へ。アリシアICAP副総裁、エルネストCTC国際局長を交えの懇談会、はじめに全員で稲作成功を祈願して是永さんが用意したダルマに片目を入れました。その後は、青年の島での稲作プロジェクトの状況や日本訪問の時の思い出話など大いに語らい、楽しい一時を過ごしました。（記：松矢文雄）

2012 年秋 青年の島稲作支援レポート要旨

新潟 菊田仁

2012 年 11 月 19 日～22 日 君島一字、小林雅昭、菊田の3人で、青年の島を訪問

宮沢昇、上河、エステバン諸氏で対応。窓口であったハイメはメキシコ留学中。

1 2012 年度の稲作栽培は終了

今年度はフカロ、デマハグアは水不足で栽培できず、



稲作跡地を視察

2か所のみ。メヤ、シロ・レドンドの栽培結果は、キューバの新しい品種のLP7、LP5（栽培期間が短く、収量性が高い品種）作付した結果、収量は、それぞれ300kg/10

a, 150kg/10aまで増収した。

2 草の根無償支援が動き出す

在キューバ日本大使館による草の無償支援は11月中旬に農林省の許可が出て具体的に機械機器が順次揃えられる予定。日本大使館へは祝日で訪問できなかったが、帰国後、大使館担当の上杉さんから連絡があり、窓口のNGOと連絡をとり、支援を行うとの連絡があった。

3 海草はたい肥代わりの可能性あり

5月に訪問した時、海岸に打ち上げられた海草が肥料にならないかと大学で試験してもらったが畑で使った結果、収量等の増え、効果が認められた。量もかなりあることから活用が期待できる。

4 米粉や木酢液等新たな取り組みを検討

おみやげで持っていく米価はキューバ人には好評だ

が、キューバでは販売していない。

今回、粉碎機を持っていったことから米粉活用を検討するようだ。また、この間、炭を作るときにでる木酢液を活用し、防除ができないか提案してきたが、話をするようである。

5 追加ポンプホースはキューバに無事到着

5月にホースを延長したとの要望があり、訪問に合わせてクバポンで購入し、キューバに輸送し、無事キューバに到着したようだ。

帰国後、宮沢さんから受け取ったとの連絡があった。なお、前回から故障したインジェクターの部品が手に入らず、次回部品を持っていきたい。

6 各地区農業者を交えて会議の実施

この時、クバポンの支援金でキューバ本島の稲作研究機関であるロスパラシオスに研修に行くことでまとめ、12月に行くことになっている。



今後の展開についての打合せ

7 相変わらず手に入らない軽油

ポンプを導入の関連し現地政府担当者によると「安価の軽油は手に入らず、一般の軽油を使い機械を動かしている」とのこと。1L当たり1.2CUCと日本と大して変わらない単価である。今後各種機械をそろえた場合、費用が賄えるか大きな問題となる。いずれにしろ、輸入

品は日本と変わらず肥料、農薬等も同じである。

8 青年の島は宝の島

今回、島の特別区の計らいで保護区であるスールに訪問することができた。入るときは軍隊による検査がある保護区であることから非常にきれいな海と原住民が住んで

いた洞窟を見ることができた。青年の島もまだまだ見ていないところもあり、どんな資源があるか、今後も見ていかなければならない。

9 子どもたちに農業の絵を依頼

7月の坂戸のキューバフェステバル用に農業の絵を描いてもらいたいと4地区に依頼してきた。3月の松矢さん訪問時に回収できる予定である。

※詳細はカンパ協力者用の稲作支援報告書 vol3 で。ご希望の方はお申し出ください。

稲作支援／個人カンパ収支 2013/1/31					
収入			支出		
11 年度支援金	204,000	25 人＋カンパ	連絡・会議費	84,798	報告 1 号、2 号分 プロジェクト推進諸費
12 年度支援金	192,000	33 人＋カンパ	印刷代	72,646	
団体基金より	165,000	翻訳代経費	送料	32,500	
			事業費	61,500	
			翻訳費	165,000	
計	561,000		計	416,444	
収支残 1 4 4, 5 5 6					
【メモ】2012 年春ポンプ 2 基及びポンプ贈呈、燃油代等の寄付を行ってきた。2012 秋には、試作用のもち米、ホース 50 メートル 2 巻を寄付。現在、ポンプ備品インジェクターを手配中。これらの費用はプロジェクト団体基金より、支出。					

第 6 回キューバ連帯アジア太平洋地域会議 レポート

能村 綾

2012 年 10 月 20 - 21 日 於：スリランカ、コロンボ
(スリランカ国家準備委員会による)

今回の連帯会議は、3 月に予定されていたブノンペン（カンボジア）での会議が延期変更されスリランカで行われたもの。

日本、ベトナム、カンボジア、インド、ニュージーランド、ネパール、バングラディッシュ、南北韓国、そしてスリランカなど 22 か国、129 名の参加者が連帯にかけつけた。

今回、日本からは女性が 5 名参加。大阪キューバを知る会 (<http://osakacuba.blog58.fc2.com>) から 2 名、ピースボートから 1 名、キューバ在住の日本キューバ友好会の方 1 名、そして Cubapon から私が参加した。今回は今までになく、日本からの参加も多く、キューバへの関心がうかがわれた。

スリランカ訛りの英語が聞き取りにくかったが、キューバへの連帯、キューバを思う気持ちを各々語った。

特に開催国のスリランカ、気合を入れて叫ぶ。

「ビバ！キューバ！ ビバ！フィデル！ ビバ！ラウル！

夕方、会議の途中で、急きょ予定が変更になった。

スリランカの大統領が私たち代表団を歓待したいという連絡が入り、早急に準備が始まった。

空港より厳しいセキュリティチェックを通過できた参加者のみ、用意されたバスに乗り込み、大統領官邸へ向かう。靴の中身もすべて係員によりチェックされ、一切の電子機器は持ち込めない。

大統領官邸など入ったことのない私は思わず緊張した。しかしせっかく入るのに、写真が撮れないのは本当に残念だった。

5 - 60 人ほどの選ばれた参加者たちを乗せたバスはホテルを出て 20 分ほど走ると、止まった。

大統領官邸は真っ白で、よく TV で見るようなホワイトハウスだった。

夕暮れ時のホワイトハウスには、やわらかな灯がはえ、美



しく手入れの行き届いた華美な庭を通り抜けると、ホワイトハウスの正面にでた。

門は大きく開かれ、入り口には大勢の傭兵がいて、みな歓迎ムードで笑顔で出迎えてくれた。

会議室が何かに集まり、そこに大統領が挨拶に表れて数分で終わるのかと思っていた私の目の前には、見たこともないような豪華絢爛な大統領官邸内のホールがあり、そこには溢れんばかりの素晴らしいご馳走が並んでいた。

そこに、間もなくしてスリランカの正装した大統領が入ってきた。

そしてひとり一人と握手しながらゆっくり歩いてくる。もちろん私の前にも。そして大統領は微笑んで、しっかりと握手してくれた。

その後、大統領が挨拶し、カクテルパーティが始まった。私はアルコールが飲めないが、トロピカルフルーツのジュースが豊富だったし、とてもおいしかった。

遠慮している暇もなく、大統領に仕える若手の兵士たちが、シャンパンやおつまみを持ってまわってくる。なんと巻き寿司まであった。

各国の代表団の方々と会話しながら美食を満喫し、デザートのはとは、



左から 2 人目が報告者、その右隣はアリシア ICAP 副総裁

舞踊（キャンディダンス）が始まり、それとともに豪華な本格ディナービュッフェが用意された。大統領官邸で、限界まで食べてしまっていたので、さすがにここでは遠慮し、飲み物だけいただきつつ、舞踊鑑賞をしつつ夜はふけた。

翌日、朝から会議の続きが始まったが、昨日はほぼ満席だった会場には約50%の人しかいなかった。今日のメインは、コロomboの郊外に、ゲバラが記念植樹したという木を見学に行くことだった。会議を早々に切り上げ、一同バスに乗って郊外の村へ向かった。1時間弱で到着し、森の小屋の前に大きな1本の大樹をみた。これがゲバラが1959年の夏にスリランカを訪れた際に、ここに植樹したものだった。

ところが、一同が到着した瞬間に、天候がガラッと変わり

雨が降り出した。雨はどんどん激しくなり、歓迎のあいさつもそこそこに、雨をしのぐために小屋に入ってセイロンティーをいただいた後、雨がおさまったので木の前で各々写真を撮り、一同バスに乗ってホテルへ戻った。

予定では、今夜、最終日の夜なので皆でキャンディダンスのディナーショーとなっていたが、急きょ昨日、大統領官邸の訪問の後にダンスはみてしまったので、今日は何もなく、ホテルに着くと各自で夕飯をとり、そのまま会はお開きになった。

今回は会議以外にも盛りだくさんのイベント、そして各国の代表たちと友好を深める機会があり、大変有意義なスリランカ訪問であった。

案内 キューバ・フェスティバルVOL.2に大結集を呼びかけます。

～支倉常長キューバ訪問400周年記念～

「モンカダ兵舎襲撃・革命記念日60周年」「日本人のキューバ移住115周年」
2013年7月27日（土）、埼玉県坂戸市文化会館大ホールへ。第一回目につき、アレキサンダー&プーロスアバーノスが華麗なキューバ音楽を披露します。

また、同日、午前には同所で【キューバ報告講演会】が付設で開催され、「キューバ教育研究会視察調査訪問報告」「青年の島でのクバボン稲作支援報告」も行われます。

※詳細は、同封チラシ参照。

※チケット取り扱い：CUBAPON は協賛していますので、入場料が1500円に割引されます。ご参加はUBAPONにお申し込み下さい。

●2012年10月、国連高等弁務官宛に、CUBAPONのキューバとの友好活動についてのレポートを送った。これは、キューバへの言われなき誹謗を払拭するためのもので、キューバの国情を広くアピールするために行われました。

●「カリブの社会主義PartXV」発行案内

2012年秋、実施された訪問団の現地レポート。共産党大会後のキューバの姿を、医療現場や農場視察を通じて見聞した記録。3月末に発行予定（A4版、800円 送料込）

●11月/キューバ平和友好訪問団の呼び掛け～モンカダ兵営祝襲撃60周年記念～

第17回キューバ平和友好訪問団を、11月下旬に予定します。

今回は、キューバ革命の発端となったモンカダ兵営襲撃事件から60周年を迎えます。キューバ革命の原動力となった「7・26運動」はここから始まりました。くしくも、この襲撃失敗でとらわれたフィデルらは青年の島のモンディール監獄に収監されていました。

稲作支援の地「青年の島」にいくとその監獄を見学できます。

※詳細は6月案内。

●第7回キューバ連帯アジアパシフィック会議、第3回キューバ連帯世界会議の案内

第6回キューバ連帯アジアパシフィック会議で次回会議をベトナムで2014年に開催することが決まりましたが、第3回キューバ連帯世界会議が2014年10月に開催されることになり、アジアパシフィック会議は今年の10月から11月ごろに前倒開催されることが検討されています。

2014年の第3回キューバ連帯世界会議は2000年の第2回会議以来14年目の開催となる模様。

参加に興味ある方は、ご一報下さい。

●「米自給支援プロジェクト報告 vol.3」発行さる

青年の島での「米自給支援プロジェクト」の報告を協賛カンパいただいた方に随時行っています。ご希望の方は「協賛カンパー口＝3,000円」をお願いします。只今、2013年度協賛カンパ呼び掛け。

協賛カンパの振り込みは

郵便振替口座番号：00170-2-195919

口座名：日本キューバ連帯委員会

※通信欄に「米自給支援プロジェクト」と記入下さい。

●青年の島での2013年春稲作支援指導で、菊田仁さんが、4月25日から出向きます。また、すでに贈呈した給排水ポンプの故障部品も届けられる予定。

●キューバ教育調査視察団が、キューバ教育研究会の企画で2013年3月3日から実施されます。

●2014年はCUBAPON結成20周年です。1994年7月30日、キューバの特別期（ソ連・東欧社会主義体制崩壊によってキューバ経済が大打撃を受けた時期）に、連帯を掲げ小さく旗揚げしました。

皆様と相談しながら、活動計画を検討して行きたいと思います。御意見をお待ちします。

2012年10月5日、日本外国特派員協会において、アンドレス・ゴンザレス・バジエステル駐日臨時代理大使による、下記の内容（当日配布された発言内容）での記者会見が行われた。参加者は私たちクバポンの2人（松矢・細谷）を含め、30人超の盛況であった。なお、当日は「フィデル・カストロ自伝 勝利のための戦略 キューバ革命の闘い」の出版記念会も併せて行われた。

第67回国連総会での決議案

「アメリカ合衆国による対キューバ経済・貿易・金融封鎖を終わらせる必要性」について

2012年11月13日、連続21回目になるが、キューバは国連総会に「アメリカ合衆国による対キューバ経済・貿易・金融封鎖を終わらせる必要性」と題する決議案を上程する。

昨年は186の国連加盟国がこの決議案に賛成した。このことは、封鎖解除を求める闘いが国際社会の圧倒的多数に認められ支持されていることの明白な証拠である。

キューバに対する経済・貿易・金融封鎖は、その撤廃を求める国際社会のほぼ全会一致による度重なる要求にも関わらず、継続され強化されている。

オバマ大統領による移住キューバ人の渡航と送金に関する一部の規制緩和は、キューバに対する封鎖政策を形成する法や規制の複雑な網の目を変えるものではない。さらに、アメリカ市民のキューバへの渡航禁止は、極めて厳しい規制の下での非常に制約された例外を除いて、維持されたままである。

封鎖の域外適用が異常なまでに強化され、キューバと経済・貿易・金融関係を持つ、あるいは持とうとする第三国の市民や企業に対する制裁や追求が強まっている。

キューバの国際金融取引への域外での追跡が強化され、そこには多国間協力機関によるものまで含まれているが、これはアメリカの現政権による封鎖実施の特徴の一つとなっている。

今年アメリカ政府はオランダのING銀行に対し、キューバと米ドルでの取引を行ったとして6億1900万ドルの罰金を科した。これはキューバとの商業関係を維持したことに対して外国の銀行に科せられた罰金として最高額のものである。アメリカの外国試算管理局アダム・スズビン局長は、その機会を利用して、キューバと関係を持つ外国企業に、この罰金は「アメリカの制裁を回避しようとする何者に対しても明白な警告となるべきものである」と警告した。

キューバに対する封鎖は引き続き、世界のある一国に対して行われる最も不当で広範囲にわたり、最も厳しく、さらに半世紀前からという最も長期にわたる一方的、強制的制裁システムとなっている。

国際人道法は例え戦時中であつたとしても、必需品の食料や薬品に対するあらゆる種類の封鎖を禁止している。それにもかかわらず、キューバは、食料や薬品さえも第三国の米企業の子会社から輸入できないでいる。

封鎖は国際法に違反し、国連憲章の目的と原則に反し、主権国家の平和・発展・安全保障の権利を侵すものである。その本質と目的の上で、一方的な侵略行為であり、国の安定への恒常的な脅威である。

封鎖は国民全体の人権に対する大規模で系統的、明白な侵害である。またキューバへの渡航の自由を奪うことにより、アメリカ国民の憲法上の権利をも侵害する。さらに、その域外で適用される性格から、他の多くの国家の主権を侵害する。

アメリカ合衆国による対キューバ経済・貿易・金融封鎖がキューバ国民に直接及ぼした経済的被害は2011年12月までの段階で、非常に控えめに計算しても、時価にして1080億ドルを超える数字となる。

国際金融市場での金に対するドルの下落を考慮するなら、キューバ経済の被害は1兆660億ドルを越えることになる。

封鎖は引き続き、犯罪的、非人間的な政策であり、道義的に支えられないものであり、主権と独立、自由な自決権を守るキューバ国民の決意を挫くという目的を達成できなかったし、これからも出来ないであろう。しかし、国民に欠乏と苦悩をもたらし、国の発展を制約し遅らせ、キューバの経済に深刻な害を与えている。封鎖は、キューバの経済社会発展の主要な障害となっている。

封鎖はアメリカ国内でも国際社会でもますます批判が増している政策である。

アメリカはこれ以上遅らせずに、無条件で封鎖を撤廃すべきである。

キューバは、多国間貿易システムの基準、通商と航海の自由、国連憲章と国際法の原則、国内法の域外適用への反対、これらにコミットするすべての政府に、2012年11月13日には国連総会で封鎖の終了を要求する決議案に再び賛成票を投じるよう要請する。

我々、第 VI 回キューバ連帯アジア太平洋地域会議への参加者は、米国や帝国主義大国からの侵略の多くに直面しなければならなかった英雄的なキューバの人々に私達の支持と連帯を表明するために 2012 年 10 月 20 日 - 21 日にコロンボ、スリランカ民主社会主義共和国の首都に集まった。マルティの言葉 “今日キューバで立ち上がる人々は、これまでのために立ち上がる” を合唱し、我々は、キューバを擁護し、その革命や業績は、その進歩的人類の願いを実現するために戦い続けるための唯一の方法であることを認識している。

我々だけでなく、アジア太平洋地域でのキューバとの強い連帯の動きは広がり、22 のアジア太平洋諸国に存在するキューバと連帯する 226 の友好協会やグループだけでなく、一般の共感者もまた、武器を輸出したり戦争を行わない、識字率と教育の向上、スポーツトレーナーや教授の派遣提供していることを宣言する。

- 我々は、米国によって課された、不当な違法行為、経済封鎖、特にキューバの金融取引や罰金に関する嫌がらせが、オバマ大統領の政権下で強化されており、それがキューバの経済と社会発展に障害をきたしている政策を非難する。

- 我々は、オバマ大統領によって、不当に米国の刑務所で 14 年間投獄されたキューバの英雄たちを解放するために、キューバファイブに対して恥ずべき不正を終了することを要求する。 - ルネ、ラモン、フェルナンド、ヘラルド、アントニオ - 誰もがキューバの人々の勇敢さと勇気の一例である。

- 我々、国際的な連帯は、彼らの帰国が実現するのを助ける唯一の方法である。我々は、キューバファイブが釈放されるまで、闘いに参加するようにすべての人々呼び掛ける。

- 我々は、テロリスト用の刑務所や拷問センターとして、不法に米国政府によって占有使用されている、グアタナモ海軍基地、領土の主権をキューバの人々に返すように要求する。

- 我々はまた、米国の政策を正当化するために、負のイメージのキューバ革命プロセスを発信する、帝国主義に奉仕するメディアのやり方を非難する。

- 我々はすべての可能な手段を用いて、キューバとすべての市民のより良い未来を築くために、キューバの人々によって行われた作業を促進するために私たちの明確なコミットメントを再確認する。

- 我々は、独立、主権と経済的に大きなものを維持し、キューバの社会主義を改善するためにがんばっているキューバの人々の自決の権利を守るために我々のコミットメントを宣言する。

- 我々は、他の誰も追従を許さないゲリラ闘志、エルネスト・チェ・ゲバラと同様に社会主義を維持するために自分の生活を捧げてきた革命的な男性、陸軍将軍と現大統領ラウル・カストロ、そして最高経営責任者フィデル・カストロは、私たちのすべての希望である。したがって、私たちはキューバの人々とその革命への強いコミットメントと支持を表明する。

52 年間にわたり、全世界、すべての大陸でキューバ革命の同志をまとめているキューバ (ICAP) との連帯でもある、今回の第 VI 回アジア太平洋地域会議。我々はまた、すべての社会的正義、すべての男性と女性の平等な権利、多くの社会的な成果をもたらしたキューバ革命の勝利、第 54 回記念日にキューバの人々を祝福する。

私たちは、スリランカ国家準備委員会だけでなく、私たちが受け取った暖かいおもてなしのすべてに対し、キューバのすべての友人に、そしてスリランカ政府に、心から感謝を表現したいと思う。

我々は、自分自身が強くキューバとその革命にコミットメントを感じ、この国を去る。

第 VI 回 キューバ連帯アジア太平洋地域会議にて

コロンボ、スリランカ、2012 年 10 月 21 日